

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和6年度第1学年 国語科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・村学力調査の問題内容では、「インタビューの内容を聞き取る」の目標値40%に対して、校内正答率0%だった。</li><li>・村学力調査の問題内容では、「漢字を書く」の目標値40%に対して、校内正答率0%だった。</li></ul>	
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和4年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・「インタビューの内容を聞き取る」については、令和4年度に当該の授業改善推進プランが作成されていない。</li><li>・「漢字を書く」については、令和4年度に「計画的に漢字学習の習熟度を確認し、個別支援を充実する」という改善プランを策定した。</li></ul> <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・「インタビューの内容を聞き取る」については、校内研究の題材として取り上げ、聞き取った内容をもとに対話を深める活動を実施する。</li><li>・「漢字を書く」については、小学校の復習を計画的に行っている。</li></ul>	
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <p>＜方策＞</p> <ul style="list-style-type: none"><li>①インタビューの内容を聞き取る活動を計画的に実施し、表現活動の充実を図る。</li><li>②漢字書き取りの習熟度を計画的に確認し、家庭学習の充実を図る。</li></ul>	<p>＜検証方法＞</p> <ul style="list-style-type: none"><li>①2学期の授業で、「インタビューの内容を聞き取る」の問題項目の正答率が、1学期を上回っているか確認する。</li><li>②2学期の授業で、「漢字を書く」の問題項目の正答率が、1学期を上回っているか確認する。</li></ul>
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p>＜成果＞</p> <p>聞き取り問題において「インタビューの内容を聞き取る」の問題項目の正答率が85%で1学期を上回った。また、漢字テストにおいて「漢字を書く」の問題項目の正答率が42.5%で1学期を上回った。</p> <p>＜課題＞</p> <p>今年度重点的に取り組んだ方策について生徒の意欲が高まった一方、新出漢字の定着に課題が残った。授業評価アンケートにおいて、新たに「文章を書くこと」の向上に課題意識をもつ生徒が表出し、学習活動の均衡に課題が残った。</p>	<p>5. 令和7年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <p>新出漢字の定着と文章を書くことの向上をはかるために、学習活動の中で文や文章を書く際に積極的に使うことができるように指導する。</p>
<p>6. 令和7年度(次学年)末に期待する生徒の姿</p> <p>「漢字を書くこと」に対する意欲が、学力向上にらせん的に結び付く生徒。</p>	

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和6年度第1学年 社会科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業』を実現する上で解決すべき課題</p> <p>知識を活用した表現力の向上</p> <p>例1 すべての領域において全国平均よりも上回っており、良好な状況といえる。日本の政治に関しては正答率 100%と憲法を含む政治の領域に関して関心が高いことが分かる結果となっている。(令和6年度 村学力調査の結果 参照)</p> <p>例2 令和6年度本校1学年対象教科アンケート 「この教科の学習内容について、現在どの程度理解をしていますか」 ⇒「あてはまる」「だいたいあてはまる」 100% (2名中 2名)</p>	
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和4年度授業改善推進プラン記載内容</p> <p>【課題】 学力調査の正答率について、全国平均を上回り、大変良好な状況である。しかし、「特色ある地域の様子」の領域に関して、目標値に対して正答率が下回っている。 → この結果に対して、上記例からも分かるように改善がなされていると判断する。</p> <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業』を実現するための工夫等 社会科として重要視している、多面的・多角的な深い学びを得られる授業構成により、表現力を伸長させていく。(この表現力を『できる』力と定義する) 以下、方策に記す。</p>	
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <p>&lt;方策&gt;</p> <p>①小单元ごとに表現力を育成するパフォーマンス課題を設定する。また都度適切なサポートを実施する。</p> <p>②後期授業評価アンケートを実施する。</p>	<p>&lt;検証方法&gt;</p> <p>①課題の評価(第二観点 A~C以下)について、全課題・全生徒の評価平均の結果分析(目標値は平均値B以上)</p> <p>②後期授業評価アンケートの結果分析(目標値は、理解度A【あてはまる】 B【だいたいあてはまる】100%)</p>
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p>①平均値B 目標値を達成した一方、未提出の課題もあった。個別支援の方法が課題として残る。</p> <p>②結果B 目標値を達成した一方、Aには届かなかった。授業中において知識理解の向上を図りたい。</p>	<p>5. 令和7年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <p>パフォーマンス課題における第二観点評価の向上に向け、多角的に学ぶことができるような工夫を授業において行う。</p>
<p>6. 令和7年度(次学年)末に期待する生徒の姿 より深く思考・判断・表現することができる姿。</p>	

**〈授業改善推進プラン 令和6年度第1学年 数学科〉**

**1. 「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題**

1年生の数学を見ると、村学力調査において全国平均を大きく超えて、おおむね良好な状況であるが、問題の内容は、「データの活用」に課題があるといえる。特に「グラフの読み取り」など図、表、グラフなど資料を扱い説明することはどの単元にも必要となるため、復習が必要である。

**2. 課題改善に向けた取組状況**

(1) 令和4年度授業改善推進プラン記載内容

- ・令和4年度の学力調査の正答率について、全国平均とほぼ同程度で、おおむね良好な状況であるが、個人差が大きいことが課題である。
- ・「数と計算」などの基礎基本の問題の正答率が目標値を大きく下回っていることから、計算ミスやケアレスミスが多いことが課題だと思われる。

(2) 今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等

- ・「文字と式」の単元において、自力解決で行う問題演習の前に、クイズ形式での理解を促す計算トレーニング。
- ・1次方程式の単元において、ホワイトボードやICT機器を使用した教え合い活動。
- ・ICT機器（関数グラフソフト GRAPES）を活用したグラフの読み取り・作成。

**3. 課題の改善に向けた方策と検証方法**

＜方策＞

- ①過去の既習内容の苦手意識を取り除き、間違えたことを隠さず確認していくことで、主体的に学習に取り組む態度を育成する。
- ②自分の考えをまとめ、クラスメイトに共有することで深く理解する。

＜検証方法＞

- ①小テスト  
実施前と後に行い、定着度を確認する。
- ②ICT機器を用いた発表  
発表の際に注意するポイントの説明も行うように設定する。

**4. 検証結果(成果と課題)**

＜成果＞主体的に取り組む、発表などでも具体的にアウトプットできた。

＜課題＞用語などの計算でない部分での理解が足りないことが課題である。

**5. 令和7年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項**

知識の定着を定期的に行う。

**6. 令和7年度(次学年)末に期待する生徒の姿**

基礎的な知識を正しく使用して発展的な内容に取り組める姿。

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和6年度第1学年 理科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業を実現する上で解決すべき課題</p> <p>令和6年度村学力調査結果より、次のことが挙げられる。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・「植物のつくりとはたらき」「水よう液の性質」の正答率は30%を下回った。どちらも基礎知識の定着が課題である。</li><li>・図、表、グラフ等の資料を読み取る問いに関しては、この単元のみならず全般的に課題が見られる。</li></ul>	
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和4年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・会話文やまとめられた図、表、グラフ等の資料を読み取る問いに関しては、この単元のみならず全般的に課題が見られる。</li></ul> <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・タブレット端末を活用しモデル実験や図、映像資料を使い、主体的に考える学習活動を充実させる。</li><li>・小テストの活用や授業内容をこまめに振り返ることで「知識・技能」の定着を図る。</li></ul>	
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <p>&lt;方策&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"><li>①個々の能力に応じた復習問題を補充するためにタブレット端末を活用した学習活動を充実させる。</li><li>②小テストの活用や授業内容をこまめに振り返ることで「知識・技能」を定着させる。</li></ul>	<p>&lt;検証方法&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"><li>①ICTを用いた発表の評価と年間2回の授業評価アンケートの実施内容を分析する。</li><li>②年間15回程度の小テストと年間4回の定期考査を実施し、内容を分析する。</li></ul>
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p>&lt;成果&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・図、表、グラフを読み取り、科学的用語を用いて自分の考えを表現できる生徒が増えた。</li><li>・小テストや定期考査の結果から、思考・応用する問題の正答率を高めることができた。</li></ul> <p>&lt;課題&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・知識を身に付けることができたが、発表など周囲に向けて表現が難しいと感じられた。</li></ul>	<p>5. 令和7年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <p>周囲との話し合い活動や発表を通して、身に付けた知識を活用できるような場を設定し指導する。</p>
<p>6. 令和7年度(次学年)末に期待する生徒の姿</p> <p>理解していることを活用して、表現できる生徒。</p>	

〈授業改善推進プラン 令和6年度第1学年 音楽科〉

1. 『わかる』から『できる』を体感する授業を実現する上で解決すべき課題

授業評価アンケートの興味・関心の項目に関しては全員Aの「あてはまる」となっている。しかし、理解度を問う項目については、Bの「だいたいあてはまる」となっている。教師から見ると理解していると見取っているが、生徒は十分に満足している理解度ではない。これについて生徒に質問してみると「期末考査ができなかったから」との回答があった。知識・技能を向上させるどころでは「できる」と感じ取れるが、音楽科の特性上、感性を働かせ音楽を味わうというところでは「できた」を感じ取りにくい。2年前からの課題であった「できる」をもっと深めるという目標はある意味達成したのかも知れないが、それは“点数”というものさしができたからかも知れない。そのため、点数では測れない音楽に親しみ、味わうといったところに焦点を当てなければならない。

今後、知識・技能だけではなく、感じた音楽に対して自分なりに考え、自信をもって表現し、それに対して価値付けを行っていく。特に、歌唱領域では生徒全員が「もっとうまく歌えるようになりたい」と願っているため、昨年度から引き続き変声期に配慮し、“声量”と“声質”のバランスをうまくとりながら、技能向上だけではなく、音楽的な感性を働かせたうえで、「できた」を体感する指導を進めていく。

2. 課題改善に向けた取組状況

(1) 令和4年度授業改善推進プラン記載内容

- ・「広く浅く」の知識・技能になり「もうできた！」となってしまう。
- 該当する項目は改善されている。

(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業を実現するための工夫等

他教科の教員とも情報を共有した結果、基礎的学力の定着があると判断し、少し難易度の高い課題に取り組んでいる。歌唱領域に関してとても高い関心があるため、外国語（ドイツ語）の歌曲に挑戦した。日本歌曲とドイツ歌曲との比較に重点を置き、授業を実施した。その際、知識や技能に偏らず、曲が生まれた背景やヨーロッパと日本の文化の違いなどに注目しながら、どのように歌うとよいのかという表現することを意識し、取り組んでいる。歌唱領域だけではなく、器楽・創作・鑑賞領域のつながりを意識し、次時への表現活動へ活かす授業を展開している。難しいことに挑戦することで意欲が高まる生徒であるため、できることのワンランク上の目標を設定しながら授業を展開していく。

3. 課題の改善に向けた方策と検証方法

＜方策＞

- ①ドリルを実施する。
- ②アンケートを実施する。
- ③期末考査の分析を行う。

＜検証方法＞

- ①フォームを使ったドリルを実施し、授業に対する理解の定着を確認する。
- ②フォームを使ったアンケートの分析し、授業改善に生かす。
- ③期末考査の分析を実施し、ドリル作成や授業改善に生かす。

4. 検証結果(成果と課題)

＜成果＞

少し難易度をあげた歌曲や器楽の演奏、創作に理解を示しながら意欲的に取り組むことができた。その結果、音楽が好きという生徒が増えた。

＜課題＞

鑑賞以外の分野には消極的な部分がある。

5. 令和7年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項

難しいことに対して、粘り強く取り組む姿勢がうかがえる。特に鑑賞以外の分野についてはもう少し難易度をあげて指導する。

鑑賞に関しては体験活動と並行しながら授業を進めていく必要がある。

6. 令和7年度(次学年)末に期待する生徒の姿

歌唱・器楽・創作・鑑賞の各領域をバランスよく意欲的に取り組む生徒。

〈授業改善推進プラン 令和6年度第1学年 美術科〉

<p><b>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</b></p> <p>これまでの授業で身に着けた知識や技能が生かされたということが可視化できるような成果物がまだないため、今後の活動で成果として表出するように意図してファシリテーションをする必要があり、現状では課題への取り組み方の差異をポテンシャルで埋めることができている。知識や技能の地道な習得や、自身の意欲、主体性によって成果が表れる、とすべての生徒が実感できるような授業づくりをする必要がある。</p>	
<p><b>2. 課題改善に向けた取組状況</b></p> <p>(1) 令和4年度授業改善推進プラン記載内容</p> <p>【課題】授業への興味・関心は高いが、学習内容の確実な定着については、改善が図られるとよいと考えられる。</p> <p>【改善策】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・表現活動においては、活動に応じて材料や用具を活用し、全学年までの学習内容や経験、技能等を総合的に生かしたり、方法などを組み合わせたりするなどして、活動を工夫する指導を行う。</li> <li>・表現活動における造形遊びの過程や振り返りに関して、児童自らがタブレット端末やデジタルカメラを活用することで、図画工作科の学習におけるメタ認知能力を高める。</li> </ul> <p>【評価】 これまでは経験値とポテンシャルの違いが成果として見えていたため、授業で知識を身に着けたり技能を磨いたりすることの重要性を理解しきれない生徒がいる。そのため、自分の力がこれ以上は伸びない、あるいは自分は十分目標を達成できている、と思いつむような様子が見られる。毎時の取り組みや題材ごとの取り組みの積み重ねによる変容が顕現し、さらに生徒自身がそれを自覚できるような授業の組み立てを行い、今後の取り組み姿勢の変化を促していく必要がある。</p> <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <p>題材ごとの導入を丁寧に行い、スモールステップの設定と毎時の目標を細分化している。また、振り返りワークシートを用いて目標の達成に対する自己評価を行い、次回の自分に向けての覚え書きを残すなど、主体的に取り組みを継続できるようフィードバックも充実させながらルーティンを作っている。</p>	
<p><b>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</b></p> <p>＜方策＞</p> <p>①年間2回授業評価アンケートを実施する。</p> <p>②授業ごとの振り返りや題材ごとのまとめの活動を充実させる。</p>	<p>＜検証方法＞</p> <p>①年間2回の授業評価アンケートの実施内容分析。</p> <p>②振り返りワークシートのフィードバックを行い、自己評価を継続して比較する。</p>
<p><b>4. 検証結果(成果と課題)</b></p> <p>＜成果＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・図工から美術への移行は問題なくできた。</li> <li>・振り返りと自己評価を積み重ね、できなかったことができるようになる実感を得て、技能の向上のために知識を定着させたり技法の練習をしたりすることの価値に気づいている様子が見られた。</li> </ul> <p>＜課題＞</p> <p>見通しをもって主体的に活動に取り組めるように時間やペースの配分を考える力を身に付けることが課題。</p>	<p><b>5. 令和7年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・与えられた時間の中で自分のやりたいことをやるためには、見通しをもつことや計画を練って考えながら実行していく必要があることを示す。導入段階でゴールまでのステップが思い描けるように工程を可視化して常に確認できるようにする。</li> <li>・ただ授業を振り返って記録するのではなく、毎時間目標が達成できたかどうかの自己評価を徹底し、次にやるべきことを書く習慣をつける。</li> </ul>
<p><b>6. 令和7年度(次学年)末に期待する生徒の姿</b></p> <p>見通しをもって主体的に課題解決に取り組む生徒。</p>	

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和6年度第1学年 保健体育科〉

1. 『わかる』から『できる』を体感する授業を実現する上で解決すべき課題

授業評価アンケートの結果より、「教科の関心を高められているか」、「内容を理解しているか」という質問に対して、全生徒が肯定的にとらえている。「どんな力を身に付けたいか」という質問については、体を健康に保つための方法や運動能力を維持し続ける力を身に付けたいという回答が出ており、生涯にわたって豊かなスポーツライフを実現する資質・能力を育成していくことが課題である。

2. 課題改善に向けた取組状況

(1) 令和4年度授業改善推進プラン記載内容

- ・体力やコーディネーション能力の向上を目的とした補強運動を設定し、年間を通して授業の導入部分で実践している。
- ・学習カードやICT機器を活用し、運動のポイントが視覚的にわかりやすいように工夫している。
- ・体力の違いや技能に応じて、ルールの緩和を行い、全員がゲームに参加できるようにしている。

(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業を実現するための工夫等

- ・技能の習得に繋がる補強運動を設定し、単元に応じた技能の習得を目指す。
- ・学ぶ内容の全体像や授業の流れを示す際に、言葉だけではなく視覚的な手がかりやICT機器を活用する。
- ・あらゆる運動やスポーツに親しむための、基礎となる身体能力を身に付けられる指導を目指す。

3. 課題の改善に向けた方策と検証方法

＜方策＞

- ①年間2回の授業評価アンケートの実施をする。
- ②単元の全体像や学ぶ内容の重要事項、前時との関係性がわかるように板書やワークシート、スライドを活用する。

＜検証方法＞

- ①年間2回の授業評価アンケートの実施内容分析
- ②スプレッドシートで授業内容の理解度を確認・分析

4. 検証結果(成果と課題)

＜成果＞

- ・後期授業評価アンケートの結果から、「興味・関心を高めている」という生徒が100%になり、主体的な学びを促すことができた。
- ・授業で学んだことを実生活で生かそうと、取り組むべき課題について分析することができた。

＜課題＞

- ・積極的に取り組む態度を養うことと、基礎体力の向上が必要である。
- ・単元のまとめとしてスライドを活用しようとする、運動量の確保が十分できなくなってしまうことが懸念される。

5. 令和7年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項

- ・自己の技能習得の達成度にかかわらずアドバイスし合えるように、どこにポイントをおいて観察すれば良いかを理解させる。
- ・複式学級における男女共習授業であることを配慮し、より多くの生徒の意見を共有し、学びを深めることができる環境を整える。

6. 令和7年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿

心と体を一体として捉え、豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を伸ばせる生徒。

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和6年度第1学年 技術科〉

1. 「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題

- ・学習における課題設定と、振り返りを習慣化させることが求められる。
- ・実践的・体験的な学習活動では、全ての生徒が意欲的に取り組んでいるが、知識・技能の習熟で生徒に適した指導を行う必要がある。

2. 課題改善に向けた取組状況

(1) 令和4年度授業改善推進プラン記載内容

- ・プリント教材を用意し、毎時間の授業の振り返りを家庭でできるようにする。
- ・作業に遅れがある生徒には、道具の使い方を実演・助言し、木工機械を利用して切断を行うなど加工の補助を行い、進度をそろえる。

(2) 今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等

- ・学習振り返りシートを用意し、毎時間の授業の振り返りに教師がコメントを返し、授業の理解度を深める。
- ・ノート、ワークシート、事前学習プリントを用いて知識・技能の定着を図る。

3. 課題の改善に向けた方策と検証方法

〈方策〉

- ①学習の理解度が本人にフィードバックされるように振り返りシートに記入させ、適切な支援を行う。
- ②ノートやワークシートで課題に気づき、解決できる能力を身に付けさせる。

〈検証方法〉

- ①課題， 考査， 授業評価アンケート
- ②課題， 考査， 授業評価アンケート

4. 検証結果(成果と課題)

〈成果〉

振り返りシートに教師のフィードバックを乗せることで、生徒の表現力を向上させることができた。

〈課題〉

生徒自ら振り返りシートやワーク、ノートを活用し、自己の学習を調整できる力に課題がある。

5. 令和7年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項

- ・振り返りシートのフィードバックで毎時の調整力を向上させるとともに、単元ごとにまとめの課題を用意し、技術的な課題を自主的に調べ、考えをまとめ、表現する機会を意図的に設定する。

6. 令和7年度(次学年)末に期待する生徒の姿

自分の考えや思いを、技術的な根拠を基に相手に伝えることができる生徒。

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和6年度第1学年 家庭科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・題材への興味関心の偏りによって基礎的な知識の定着の差があること。</li><li>・既習事項をもとに実生活と結び付けながら考えを深めること。</li></ul>	
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和4年度授業改善推進プラン記載内容</p> <p>「基礎的な知識の定着」、「自身の意見や考えを具体的に表現すること」が課題として挙げられる。その授業改善策として、生徒の理解度に合わせた個別支援により、基礎的な知識や技能を習得させることができ、実習やICT機器を活用しながら実際のイメージをもって内容の理解を深められたようである。</p> <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ICT機器を使用した振り返りシートを活用し、基礎的な知識と実生活での結び付きに注目させながら、振り返ることができるように教師がコメントを返す。</li><li>・身近な題材を取り上げ、生徒が考えを深められるような授業を展開する。</li></ul>	
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <p>＜方策＞</p> <ul style="list-style-type: none"><li>①副教材や視覚教材，ICT機器を活用し，実生活と結び付けながら考えられるように身近な話題を取り上げて学習意欲を高める。</li><li>②実践的で体験的な活動を増やし，自身の体験から基礎的な知識の定着を図る。</li></ul>	<p>＜検証方法＞</p> <ul style="list-style-type: none"><li>①授業内での課題や実習記録，年間3回の定期考査，年間2回の授業評価アンケート</li><li>②授業内での課題や実習記録，年間3回の定期考査，年間2回の授業評価アンケート</li></ul>
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p>＜成果＞</p> <ul style="list-style-type: none"><li>①授業中や振り返りの中で，既習事項を活用したり，自分自身で調べたりしながら内容の理解を深める姿が見られた。(授業観察，振り返りシート等より)</li><li>②実習記録や振り返りの記述内容などに変化が見られた。また，定期考査でも知識の定着が確認できた。(課題，振り返りシート，定期考査等より)</li></ul> <p>＜課題＞</p> <p>題材によって興味関心の差が激しい。</p>	<p>5. 令和7年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <p>題材によって興味関心の差を出さないために，実践的で体験的な授業の時間を確保し，基礎的な知識を定着させる。</p>
<p>6. 令和7年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿</p> <p>すべての題材において興味関心をもって意欲的に取り組む生徒。</p>	

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和6年度第1学年 英語科〉

<p><b>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</b></p> <p>令和6年度学力調査の結果において、以下の課題が挙げられる</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・英作文に関する問題のクラス平均正答率が、50.0%であり、全国平均より21.2%下回っている。</li><li>・会話全体を理解し、目的や場面、状況などを推測する問いにおけるクラス平均正答率が、50.0%であり、全国平均より11.8%下回っている。</li></ul> <p>上記のことから、学んだ学習事項を生かし、書くことや推測することなど、活用する点で課題があると考えられる。</p>	
<p><b>2. 課題改善に向けた取組状況</b></p> <p>(1) 令和4年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・令和4年度授業改善推進プランに「聞くこと」「書くこと」について記載なし</li></ul> <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・デジタル教科書にある、英語のショートドラマを授業内で視聴し、英語を聞いて内容を推測する学習の時間を日々の授業内に設ける。</li><li>・文法事項の学習の際に、異なる方法で学んだことを活用する時間を設け、繰り返し学習内容に触れる活動を行う。</li></ul>	
<p><b>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</b></p> <p>＜方策＞</p> <ol style="list-style-type: none"><li>① 視聴前に新出単語と文法事項を学び、視聴後、ドラマ内容を基に、ALTと英語で内容確認をしながら動画内容を推測する。</li><li>② ワークを用いた問題形式練習、テーマに合わせた英作文練習、生徒同士でのメッセージ形式の練習などを、様々な学習活動を実践する。</li></ol>	<p>＜検証方法＞</p> <ol style="list-style-type: none"><li>①各ユニットでのリスニングテスト</li><li>②各ユニットでのノート提出</li></ol>
<p><b>4. 検証結果(成果と課題)</b></p> <p>＜成果＞</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・日常的な話題について、概要を捉え、必要な情報を聞き取る力が高められた。</li><li>・学んだ知識を活かしてワーク類の問題に取り組む力が高められた。</li></ul> <p>＜課題＞</p> <p>やり取りなどの学習活動において会話を継続する力に課題がある。</p>	<p><b>5. 令和7年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</b></p> <p>やり取りの学習活動を行う際に、質問の例や、伝え方の表現方法の例示などを見せて指導を行う。</p>
<p><b>6. 令和7年度(次学年)末に期待する生徒の姿</b></p> <p>コミュニケーションを行う目的や場面、状況を意識して、学んだ知識を活用できる生徒。</p>	

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和6年度第2学年 国語科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・村学力調査の問題内容では、「文法・語句に関する事項」の目標値40%に対して、校内正答率0%だった。</li><li>・村学力調査の問題内容では、「文学的な文章の内容を読み取る」の目標値55%に対して、校内正答率25%だった。</li></ul>	
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和4年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・「文法・語句に関する事項」については、「計画的に漢字学習の習熟度を確認し、個別支援を充実する。」という改善プランを策定した。</li><li>・「文学的な文章の内容を読み取る」については、令和4年度に当該の授業改善推進プランが作成されていない。</li></ul> <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・「文法・語句に関する事項」については、小学校の漢字の復習を計画的に行っている。</li><li>・「文学的な文章の内容を読み取る」については、読書活動を取り入れている。</li></ul>	
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <p>＜方策＞</p> <ul style="list-style-type: none"><li>①漢字の部首に関する習熟度を計画的に確認し、個別支援の充実を図る。</li><li>②文学的な文章を読み取る習熟度を計画的に確認し、個別最適な支援を実践する。</li></ul>	<p>＜検証方法＞</p> <ul style="list-style-type: none"><li>①2学期の授業で、「文法・語句に関する事項」の「漢字の部首について理解している」の問題項目の正答率が、1学期を上回っているか確認する。</li><li>②2学期の授業で、「文学的な文章を読み取る」の問題項目の正答率が、1学期を上回っているか確認する。</li></ul>
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p>＜成果＞</p> <p>漢字の部首について正答率が49.5%と1学期を上回った。また、「文学的な文章を読み取る」の問題項目の正答率が65.7%と1学期を上回った。</p> <p>＜課題＞</p> <p>文法の活用に関する学習内容に難しさを感じる生徒が表出し、学習意欲の向上に課題が残った。</p>	<p>5. 令和7年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <p>既習事項の文法と文や文章を書く活動を関連付けて効果的な学習指導を実践する。</p>
<p>6. 令和7年度(次学年)末に期待する生徒の姿</p> <p>文法や文章を書くことに対する意欲が、らせん的に学力向上に結び付く生徒。</p>	

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和6年度第2学年 社会科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業』を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 基本的知識の習得      ・ 知識を活用した表現力の向上</li> </ul> <p>例1 全国平均とほぼ同程度であった。ただし、地理領域においては、全国平均を下回る結果となっており、課題があるといえる (令和6年度 小笠原村学力調査の結果 参照)</p> <p>例2 令和6年度本校教科アンケート 「この教科の学習内容について、現在どの程度理解をしていますか」について、「あてはまる」「だいたいあてはまる」100% (4名中 4名)</p>	
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和4年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①全体的に、「思考・判断・表現」の領域に課題がある。</li> <li>②基礎学力について、令和3年度の結果と比べて上昇しているが「主体的に学習に取り組む態度」に課題がある。(①・②ともに令和4年度 村学力調査の内容より) ⇒ 現状と、令和4年度の改善プランに関連性は見られない。</li> </ul> <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業』を実現するための工夫等</p> <p>上記課題にもあるように、生徒はある一定分野の課題を残しながらも『分かってきている』分野もある。今年度は、社会科として重要視している、多面的・多角的な深い学びを得られる授業構成により、表現力を伸ばさせていく。(この表現力を『できる』力と定義する) 以下、方策に記す。【以上、歴史分野】</p>	
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <p>&lt;方策&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①小單元ごとに表現力を育成するパフォーマンス課題を設定する。また都度適切なサポートを実施する。</li> <li>②後期授業評価アンケートを実施する。</li> <li>③上記(2)①の工夫を実践する。</li> </ul>	<p>&lt;検証方法&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①課題の評価(第二観点 A~C以下)について、全課題・全生徒の評価平均の結果分析(目標値は平均値B以上) 【歴史分野】</li> <li>②・③に共通して 後期授業評価アンケートの結果分析(目標値は、理解度A【あてはまる】 B【だいたいあてはまる】100%)</li> </ul>
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①平均値B以上。目標値を達成した。 個別支援の方法が課題として残る。</li> <li>②結果B 目標値を達成した。 目標値を達成した一方、Aには届かなかった。 授業中において知識理解の向上を図りたい。</li> </ul>	<p>5. 令和7年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <p>パフォーマンス課題における第二観点評価の向上に向け、多角的に学ぶことができるような工夫を授業において行う。</p>
<p>6. 令和7年度(次学年)末に期待する生徒の姿</p> <p>より深く思考・判断・表現することができる姿。</p>	

**〈授業改善推進プラン 令和6年度第2学年 数学科〉**

<p><b>1. 「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</b></p> <p>2年生数学を見ると、村学力調査において全国平均とほぼ同程度となっているがデータの活用の領域については全国平均を下回っており課題である。授業を行う中で、小学校での基礎的な計算方法が部分的に身に付いていない場合があり、些細な計算ミスをよくしてしまうところがある。</p>			
<p><b>2. 課題改善に向けた取組状況</b></p> <p>(1) 令和4年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学力調査の結果から、全体的に「思考・判断・表現」の領域に課題がある。特に文章題において顕著である。</li> <li>・学力調査の結果において、校内平均が昨年度、今年度ともに60点程度であり、全国平均と概ね同様であるといえるが、個人差が大きいことが課題である。</li> </ul> <p>(2) 今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・毎単元に自力解決で行う問題演習の前に、クイズ形式での理解を促す計算トレーニング。</li> <li>・「連立方程式」の単元において、ICT機器を使用した教え合い活動。</li> </ul>			
<p><b>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</b></p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>&lt;方策&gt;</p> <p>①過去の既習内容の苦手意識を取り除き、間違えたことを隠さず確認していくことで、主体的に学習に取り組む態度を育成する。</p> <p>②自分の考えをまとめ、クラスメイトに共有することで深く理解する。</p> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>&lt;検証方法&gt;</p> <p>①小テスト 実施前と後に行い、定着度を確認する。</p> <p>②ICT機器を用いた発表 発表の際に注意するポイントの説明も行うように設定する。</p> </td> </tr> </table>		<p>&lt;方策&gt;</p> <p>①過去の既習内容の苦手意識を取り除き、間違えたことを隠さず確認していくことで、主体的に学習に取り組む態度を育成する。</p> <p>②自分の考えをまとめ、クラスメイトに共有することで深く理解する。</p>	<p>&lt;検証方法&gt;</p> <p>①小テスト 実施前と後に行い、定着度を確認する。</p> <p>②ICT機器を用いた発表 発表の際に注意するポイントの説明も行うように設定する。</p>
<p>&lt;方策&gt;</p> <p>①過去の既習内容の苦手意識を取り除き、間違えたことを隠さず確認していくことで、主体的に学習に取り組む態度を育成する。</p> <p>②自分の考えをまとめ、クラスメイトに共有することで深く理解する。</p>	<p>&lt;検証方法&gt;</p> <p>①小テスト 実施前と後に行い、定着度を確認する。</p> <p>②ICT機器を用いた発表 発表の際に注意するポイントの説明も行うように設定する。</p>		
<p><b>4. 検証結果(成果と課題)</b></p> <p>&lt;成果&gt;スライドなどを使用し間違いやすいところや考えを説明できた。</p> <p>&lt;課題&gt;問題の意図の読み間違いがたまにあることが課題である。</p>	<p><b>5. 令和7年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</b></p> <p>受検(受験)などの文章題で読み取る量が増えるため、読み取りの問題を増やしていく。</p>		
<p><b>6. 令和7年度(次学年)末に期待する生徒の姿</b></p> <p>問題の意図を正しく理解し、問題解決に使用できる生徒。</p>			

〈授業改善推進プラン 令和6年度第2学年 理科〉

<p><b>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</b>          令和6年度村学力調査結果より、次のことが挙げられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「水溶液の性質」でのパーセント濃度の計算は正答率20%を下回った。</li> <li>・「火山」「地層」分野はどの項目も平均正解率を10%ほど下回った。基礎知識の定着が課題である。</li> <li>・図、表、グラフ等の資料を読み取る問いに関しては、この単元のみならず全般的に課題が見られる。</li> </ul>	
<p><b>2. 課題改善に向けた取組状況</b></p> <p>(1) 令和4年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「大地のつくりと変化」の校内平均正答率が14.3%であり、目標値40.0%および全国平均23.5%よりも低い。また、「大地のつくりと変化」の校内平均正答率が57.1%であり、目標値70.0%および全国平均77.4%よりも低い。</li> <li>・会話文やまとめられた図、表、グラフ等の資料を読み取る問いに関しては、この単元のみならず全般的に課題が見られる。</li> </ul> <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地球分野は中学校1年生で学習しているので、個々の能力に応じた復習問題を補充する。中学校2年生で学習する地球分野においても、タブレット端末を活用しモデル実験や図、映像資料を使い、主体的に考える学習活動を充実させる。</li> <li>・小テストの活用や授業内容をこまめに振り返ることで「知識・技能」の定着を図る。</li> </ul>	
<p><b>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</b></p> <p>&lt;方策&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①個々の能力に応じた復習問題を補充するためにタブレット端末を活用した学習活動を充実させる。</li> <li>②小テストの活用や授業内容をこまめに振り返ることで「知識・技能」を定着させる。</li> </ul>	<p>&lt;検証方法&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①ICTを用いた発表の評価と年間2回の授業評価アンケートの実施内容を分析する。</li> <li>②年間15回程度の小テストと年間4回の定期考査を実施し、内容を分析する。</li> </ul>
<p><b>4. 検証結果(成果と課題)</b></p> <p>&lt;成果&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実験での意見を共有する時間をより多く設けたことで、自分の考えをアウトプットできる生徒が増えた。</li> <li>・小テストや定期考査の結果から、文章読解力を要する問題の正答率を高めることができた。</li> </ul> <p>&lt;課題&gt;</p> <p>実験をモデルにした文章題を読み取る力はあるが、基礎知識やの百分率の計算でミスをする生徒が見られた。</p>	<p><b>5. 令和7年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</b></p> <p>小テストの予想問題を活用し、定期的に家庭学習の機会を設定する。また、基礎知識の定着を図るためにタブレットを用いて授業の振り返りを行う。</p>
<p><b>6. 令和7年度(次学年)末に期待する生徒の姿</b></p> <p>自然事物・事象に興味をもち、主体的に学習に取り組むことができる生徒。</p>	

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和6年度第2学年 音楽科〉

1. 『わかる』から『できる』を体感する授業を実現する上で解決すべき課題

前年度、理解度の項目についてCの「あまりあてはまらない」が25%だったが、生徒全員B以上となった。

学年のよさであるが、領域に関係なく他者と協力しながら物事を進める傾向にあり、協働的な活動においては積極的な意見交換や練習する姿が見られる。

しかし、理解度の項目について前年度からの改善は見られたものの、Aの「あてはまる」に該当する生徒がおらず、さらに理解力を高めていくことが課題である。

2. 課題改善に向けた取組状況

(1) 令和4年度授業改善推進プラン記載内容

・「わかった」「できた」と達成感を味わっても、その達成感に個人差がある。

(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業を実現するための工夫等

表現活動に意欲的な学年であるため、ためらうこともなく自分を表現することができる。現在、できていることを生かしながら、自分の考えなどを価値付けするために教師の言葉かけの工夫を行っている。特に、歌唱領域においては前年度からの課題である“声量”は改善されつつあるが、全員満足できるところまでに至っていない。そのため、声量を安定させるための技能の習得に焦点を当て、音楽を形づくっている要素と関連した身体の使い方を意識し、表現活動を充実させる。また、少人数指導の強みを生かし、一人一人にあった個別指導を取り入れ、個人差がある達成感を改善していく。

3. 課題の改善に向けた方策と検証方法

＜方策＞

- ①ドリルを実施する。
- ②アンケートを実施する。
- ③期末考査の分析を行う。

＜検証方法＞

- ①フォームを使ったドリルを実施し、授業に対する理解の定着を確認する。
- ②フォームを使ったアンケートの分析し、授業改善に生かす。
- ③期末考査の分析を実施し、ドリル作成や授業改善に生かす。

4. 検証結果(成果と課題)

＜成果＞

歌唱分野に関しては姿勢や口の開け方など基礎的なことを確認し、楽曲についてどのように歌うか根拠をもち歌唱表現に生かすことができた。

＜課題＞

「知識・技能」と絡ませながら、自分の考えについて根拠をもって説明することができるが、分野によってはねらいがずれてしまうことがある。

5. 令和7年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項

教材の中でねらいは何なのかを明確にし、音楽を表現するための技能や知識を絡ませながら表現活動ができるよう指導する。  
歌唱以外の分野も興味をもっている。器楽や創作の分野を充実させる必要がある。

6. 令和7年度(次学年)末に期待する生徒の姿

音楽に親しみ、どの分野も楽しみながら表現活動ができる生徒。

〈授業改善推進プラン 令和6年度第2学年 美術科〉

<p><b>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</b></p> <p>昨年度の経験が生きて課題解決の力が大きく伸びたと感じられる場面もあるが、自ら主体的に課題にアプローチして取り組む力や、自分の置かれている状況を判断しながら見通しをもって組み立てる力をさらに伸ばしていけるとよい。</p>	
<p><b>2. 課題改善に向けた取組状況</b></p> <p>(1) 令和4年度授業改善推進プラン記載内容</p> <p>【課題】授業への興味・関心は高いが、学習内容の確実な定着については、改善が図られるとよいと考えられる。</p> <p>【改善策】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・表現活動においては、活動に応じて材料や用具を活用し、全学年までの学習内容や経験、技能等を総合的に生かしたり、方法などを組み合わせたりするなどして、活動を工夫する指導を行う。</li> <li>・表現活動における造形遊びの過程や振り返りにおいて、児童自らがタブレット端末やデジタルカメラを活用することで、図画工作科の学習におけるメタ認知能力を高める。</li> </ul> <p>【評価】授業内のすべての活動に真摯に取り組む姿勢が見られ、与えられた課題も細分化されたステップごとに解決していこうとする意識が高いため、成果が作品に顕著に表れている。より汎用的な課題解決力を養っていくためのレベルアップを意図した授業改善を継続していく。</p> <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・作品制作の中間発表とグループでの鑑賞活動を行い、協働的な学びの場を設けて互いの作品のブラッシュアップの機会を増やしている。</li> <li>・題材ごとの導入を丁寧に行い、スモールステップの設定と毎時の目標を細分化している。また、振り返りワークシートを用いて目標の達成に対する自己評価を行い、次回の自分に向けての覚え書きを残すなど、主体的に取り組みを継続できるようフィードバックも充実させながらルーティンを作っている。</li> </ul>	
<p><b>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</b></p> <p>＜方策＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①年間2回授業評価アンケートを実施する。</li> <li>②授業ごとの振り返りや題材ごとのまとめの活動を充実させる。</li> </ul>	<p>＜検証方法＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①年間2回の授業評価アンケートの実施内容分析。</li> <li>②振り返りワークシートのフィードバックを行い、自己評価を継続して比較する。</li> </ul>
<p><b>4. 検証結果(成果と課題)</b></p> <p>＜成果＞</p> <p>既習事項を活用して構想を練り、身に付けた知識や技能を発揮しながら作品制作に取り組むことができた。</p> <p>＜課題＞</p> <p>すべての生徒が昨年度の経験を生かし、振り返りワークシートやクラスルームを使いながら進捗を自己管理できるようになってきているが、見通しがあまく他教科とのバランスがとれない生徒がいることが課題。</p>	<p><b>5. 令和7年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・題材導入時点からゴールまでの見通しをもてるよう、工程を可視化して常に確認できる環境をクラスルームで作り進捗状況の共有を行うことを継続する。</li> <li>・振り返りワークシートや課題等共有ファイルの機能を活用し、進捗管理のサポートやリマインド、フィードバックなどを丁寧に行う。</li> </ul>
<p><b>6. 令和7年度(次学年)末に期待する生徒の姿</b></p> <p>計画性と自己管理能力を高め、学んだことや身に付けた力を最大限発揮できるような生徒。</p>	

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和6年度第2学年 保健体育科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業を実現する上で解決すべき課題</p> <p>授業評価アンケートの結果より、「教科の関心を高められているか」、「内容を理解しているか」という質問に対して、全生徒が肯定的にとらえている。一方、「授業で身に付けたことがどのようなときに生かされるか」という質問については、各自が取り組んでいる競技で生かすことができるという内容にとどまっており、汎用的に生かせるようにすることが課題である。</p>	
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和4年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・体力やコーディネーション能力の向上を目的とした補強運動を設定し、年間を通して授業の導入部分で実践している。</li><li>・学習カードやICT機器を活用し、運動のポイントが視覚的にわかりやすいように工夫している。</li><li>・体力の違いや技能に応じて、ルールの緩和を行い、全員がゲームに参加できるようにしている。</li></ul> <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・技能の習得に繋がる補強運動を設定し、単元に応じた技能の習得を目指す。</li><li>・学ぶ内容の全体像や授業の流れを示す際に、言葉だけではなく視覚的な手がかりやICT機器を活用する。</li><li>・運動の楽しさを「する・観る・支える」の視点から捉えられるように授業に関連付ける。</li></ul>	
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <p>&lt;方策&gt;</p> <p>①年間2回の授業評価アンケートの実施をする。</p> <p>②単元の全体像や学ぶ内容の重要事項、前時との関係性がわかるように板書やワークシート、スライドを活用する。</p>	<p>&lt;検証方法&gt;</p> <p>①年間2回の授業評価アンケートの実施内容分析</p> <p>②スプレッドシートで授業内容の理解度を確認・分析</p>
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p>&lt;成果&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・後期授業評価アンケートの結果から、「興味・関心を高めている」という生徒が9割を占め、主体的な学びを促すことができた。</li><li>・見通しをもって授業に取り組んだことで、実技テストや学習発表に向けて計画的に練習に取り組むことができた。</li></ul> <p>&lt;課題&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・分析した自分の課題と解決に向けた練習方法を正しく選択できないことがある。</li></ul>	<p>5. 令和7年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・自己の技能習得の達成度にかかわらずアドバイスし合えるように、どこにポイントをおいて観察すれば良いかを理解させる。</li><li>・複式学級における男女共習授業であることを配慮し、より多くの生徒の意見を共有し、学びを深めることができる環境を整える。</li></ul>
<p>6. 令和7年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿</p> <p>心と体を一体として捉え、豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を伸ばせる生徒。</p>	

【別紙 2】

〈授業改善推進プラン 令和6年度第2学年 技術科〉

1. 「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題

- ・学習における課題設定と、振り返りを習慣化させることが求められる。
- ・実践的・体験的な学習活動では、全ての生徒が意欲的に取り組んでいるが、知識の観点で差が出てくる生徒がいる。

2. 課題改善に向けた取組状況

(1) 令和4年度授業改善推進プラン記載内容

- ・プリント教材を用意し、毎時間の授業の振り返りを家庭でできるようにする。
- ・作業に遅れがある生徒には、道具の使い方を実演・助言を行い、進度をそろえる。

(2) 今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等

- ・学習振り返りシートを用意し、毎時間の授業の振り返りに教師がコメントを返し、授業の理解度を深める。
- ・グループワークを取り入れ、学び合いを活発化させることで知識・技能の習熟を図る。

3. 課題の改善に向けた方策と検証方法

<方策>

- ①学習の理解度が本人にフィードバックされるように振り返りシートに記入させ、適切な支援を行う。
- ②ノートやワークシートで課題に気づき、解決できる能力を身に付けさせる。

<検証方法>

- ①課題， 考査， 授業評価アンケート
- ②課題， 考査， 授業評価アンケート

4. 検証結果(成果と課題)

<成果>

- ・振り返りシートを活用し、フィードバックによる支援を行ったことにより、特に調べ学習や作業において、自主的に活動ができるようになった。

<課題>

- ・技術分野におけるキーワード(技術的な根拠)を踏まえた上での説明する力に課題がある。

5. 令和7年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項

振り返りシートのフィードバックに、教師が意図的に技術分野のキーワードを活用し、本時で学んだことと技術の根拠が結び付けられるような言葉掛けを行い、より生徒の表現力を高められるよう、支援を継続する。

6. 令和7年度(次学年)末に期待する生徒の姿

使用条件や使用目的を踏まえ、自分の考えや思いを、技術的な根拠を基に相手に伝えることができる生徒。

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和6年度第2学年 家庭科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・基礎的な知識の定着。</li><li>・既習事項を活用しながら自身の生活と結び付けて考えを深め、振り返ることができる生徒が少ない。</li></ul>	
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和4年度授業改善推進プラン記載内容</p> <p>「基礎的な知識の定着」、「実習や実験などの実践的で体験的な題材以外への興味関心が低いこと」が課題として挙げられている。その授業改善策として実習や実践的な活動の機会を増やし、生徒の実践意欲を高め、基礎的な知識の定着を促すことができたようである。</p> <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ICT機器を使用した振り返りシートを活用し、基礎的な知識と実生活での結び付きに注目させながら、振り返ることができるように教師がコメントを返す。</li><li>・実習や実験などの実践的で体験的な活動の機会やICT機器を活用しながら視覚教材を増やす。</li></ul>	
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <p>&lt;方策&gt;</p> <p>①副教材や視覚教材、ICT機器を活用し、実生活と結び付けられるように身近な話題を取り上げて学習意欲を高めながら、生徒それぞれに応じた適切な支援を行う。</p> <p>②実践的で体験的な活動を増やし、自身の体験から基礎的な知識の定着を図る。</p>	<p>&lt;検証方法&gt;</p> <p>①授業内での課題や実習記録、年間3回の定期考査、年間2回の授業評価アンケート</p> <p>②授業内での課題や実習記録、年間3回の定期考査、年間2回の授業評価アンケート</p>
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p>&lt;成果&gt;</p> <p>①自身の生活と結び付けて考えを深めることが少しずつできるようになった。(振り返りシート等の記述より)</p> <p>②振り返りの内容や授業中の発言などに変化が見られ、既習事項を活用する場面が増えた。(振り返りシートの記述、授業観察より)</p> <p>&lt;課題&gt;</p> <p>自身の生活と結び付けて考え、よりよく改善しようとする生徒が少ない。</p>	<p>5. 令和7年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <p>実践的で体験的な授業時間を確保し、自身の生活と結び付けて考えられるような授業を展開する。また、既習事項を活用して振り返るように声掛けを徹底する。</p>
<p>6. 令和7年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿</p> <p>既習事項を活用し、自身の生活と結び付けて考え、よりよく改善しようとする生徒。</p>	

〈授業改善推進プラン 令和6年度第2学年 英語科〉

<p><b>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</b>          令和6年度学力調査の結果において、以下の課題が挙げられる</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「聞くこと」の領域のうち、「内容理解」の問いではクラス平均正答率が66.7%であり、全国平均に比べ18.2%低く、問題形式から、絵や写真を見ながら聞いた情報を整理する点に課題がみられる。</li> <li>・語形・語法の知識・理解を図る問いにおいて、クラス平均正答率は68.8%で、全国平均より、7.0%上回っているものの、個人で見ると0.0%、50.0%の生徒がおり、1年生の内容習熟度に課題がみられる。</li> </ul>	
<p><b>2. 課題改善に向けた取組状況</b></p> <p>(1) 令和4年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和4年度の授業改善推進プランにおいて、「聞くこと」に関する記載なし。</li> <li>・令和4年度の授業改善推進プランにおいて、「語形・語法」の記載</li> </ul> <p>【課題】既習表現を思い出せないことが多く、知識の定着に課題がある。</p> <p>【改善策】令和2年度と同様に、既習表現や単語を黒板に書いたり貼ったりすることで、児童が活用しやすいようにする。</p> <p>【評価】毎時間既習表現の確認を行う時間を設けることで、自信をもって表現できるようになった。</p> <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・デジタル教科書を活用し、音声と写真から英語を理解し推測する活動を行う。</li> <li>・文法の学習において、振り返る機会を意図的に作り、「知識・技能」の定着を図る。</li> </ul>	
<p><b>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</b></p> <p>＜方策＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 視聴前に新出単語と文法事項を学び、視聴後、ドラマ内容を基に、ALTと英語で内容確認をしながら動画内容を推測する。</li> <li>② 単元テストをこまめに行い、定期的に習熟度を測る機会を作る。</li> </ul>	<p>＜検証方法＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①各ユニットでのリスニングテスト。</li> <li>②年間8回の単元テスト、年間4回の定期考査の結果分析。</li> </ul>
<p><b>4. 検証結果(成果と課題)</b></p> <p>＜成果＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・音声を聞き、概要を捉える力が高められた</li> <li>・単元テストに向けて、主体的に学習に取り組む習慣が形成され始めた。</li> </ul> <p>＜課題＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・音声を聞き取り、概要は捉えられるが、音声内の情報を把握する力に課題がある。</li> <li>・文法や語彙の定着について個人差がある。</li> </ul>	<p><b>5. 令和7年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報を把握するために、聞き取った英語を文字化するディクテーション活動の場を設ける</li> <li>・書いたものを見せ合ったり、対話したりする活動を入れ、生徒間で教え合う場を設ける。</li> </ul>
<p><b>6. 令和7年度(次学年)末に期待する生徒の姿</b></p> <p>基本的な表現方法や語彙の知識を身に付け、英語でのコミュニケーションにおいて活用できる生徒。</p>	

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和6年度第3学年 国語科〉

<p>1. 『『わかる』から『できる』を体感する授業』を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・村学力調査の問題内容では、「漢字を読む」の目標値60%に対して、校内正答率28.6%だった。</li><li>・村学力調査の問題内容では、「紹介する文章を書く」の目標値65%に対して、校内正答率14.3%だった。</li></ul>	
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和4年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・「漢字を読む」については、令和4年度に当該の授業改善推進プランが作成されていない。</li><li>・「紹介する文章を書く」については、令和4年度に当該の授業改善推進プランが作成されていない。</li></ul> <p>(2) 今年度実践している『『わかる』から『できる』を体感する授業』を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・「漢字を読む」については、小学校及び中学校の漢字の復習を計画的に行っている。</li><li>・「紹介する文章を書く」については、表現活動を計画的に行っている。</li></ul>	
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <p>＜方策＞</p> <p>①漢字を読むことに関する習熟度を計画的に確認し、個別支援の充実を図る。</p> <p>②紹介する文章を書く習熟度を計画的に確認し、個別最適な支援を実践する。</p>	<p>＜検証方法＞</p> <p>①2学期の授業で、「漢字を読む」の問題項目の正答率が、1学期を上回っているか確認する。</p> <p>②2学期の授業で、「紹介する文章を書く」の問題項目の正答率が、1学期を上回っているか確認する。</p>
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p>＜成果＞</p> <p>「漢字を読む」の問題項目の正答率が62.8%と1学期を上回った。</p> <p>＜課題＞</p> <p>「紹介する文章を書く」の問題項目の学習活動を計画的に確認することに課題が残った。また、生徒により各領域の身に付けたい力にばらつきがあり、個別支援の充実に課題が残った。</p>	<p>5. 令和7年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <p>文章を書く活動の中で「紹介する文章」を適宜取り上げ、習熟度を確認する。また、漢字を読むことや書くことについては継続して取り組み、確実な定着を目指す。</p>
<p>6. 令和7年度(次学年)末に期待する生徒の姿</p> <p>漢字や文章を書くことに対する意欲が、らせん的に学力向上に結び付く生徒。</p>	

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和6年度第2学年 社会科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業』を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 基本的知識の習得      ・ 知識を活用した表現力の向上</li> </ul> <p>例1 全国平均とほぼ同程度であった。ただし、地理領域においては、全国平均を下回る結果となっており、課題があるといえる (令和6年度 小笠原村学力調査の結果 参照)</p> <p>例2 令和6年度本校教科アンケート 「この教科の学習内容について、現在どの程度理解をしていますか」について、「あてはまる」「だいたいあてはまる」100% (4名中 4名)</p>	
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和4年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①全体的に、「思考・判断・表現」の領域に課題がある。</li> <li>②基礎学力について、令和3年度の結果と比べて上昇しているが「主体的に学習に取り組む態度」に課題がある。(①・②ともに令和4年度 村学力調査の内容より) ⇒ 現状と、令和4年度の改善プランに関連性は見られない。</li> </ul> <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業』を実現するための工夫等</p> <p>上記課題にもあるように、生徒はある一定分野の課題を残しながらも『分かってきている』分野もある。今年度は、社会科として重要視している、多面的・多角的な深い学びを得られる授業構成により、表現力を伸ばさせていく。(この表現力を『できる』力と定義する) 以下、方策に記す。【以上、歴史分野】</p>	
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <p>&lt;方策&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①小单元ごとに表現力を育成するパフォーマンス課題を設定する。また都度適切なサポートを実施する。</li> <li>②後期授業評価アンケートを実施する。</li> <li>③上記(2)①の工夫を実践する。</li> </ul>	<p>&lt;検証方法&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①課題の評価(第二観点 A~C以下)について、全課題・全生徒の評価平均の結果分析(目標値は平均値B以上) 【歴史分野】</li> <li>②・③に共通して 後期授業評価アンケートの結果分析(目標値は、理解度A【あてはまる】 B【だいたいあてはまる】100%)</li> </ul>
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①平均値B以上。目標値を達成した。 個別支援の方法が課題として残る。</li> <li>②結果B 目標値を達成した。 目標値を達成した一方、Aには届かなかった。 授業中において知識理解の向上を図りたい。</li> </ul>	<p>5. 令和7年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <p>パフォーマンス課題における第二観点評価の向上に向け、多角的に学ぶことができるような工夫を授業において行う。</p>
<p>6. 令和7年度(次学年)末に期待する生徒の姿</p> <p>より深く思考・判断・表現することができる姿。</p>	

**〈授業改善推進プラン 令和6年度第2学年 数学科〉**

<p><b>1. 「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</b></p> <p>2年生数学を見ると、村学力調査において全国平均とほぼ同程度となっているがデータの活用の領域については全国平均を下回っており課題である。授業を行う中で、小学校での基礎的な計算方法が部分的に身に付いていない場合があり、些細な計算ミスをよくしてしまうところがある。</p>			
<p><b>2. 課題改善に向けた取組状況</b></p> <p>(1) 令和4年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学力調査の結果から、全体的に「思考・判断・表現」の領域に課題がある。特に文章題において顕著である。</li> <li>・学力調査の結果において、校内平均が昨年度、今年度ともに60点程度であり、全国平均と概ね同様であるといえるが、個人差が大きいことが課題である。</li> </ul> <p>(2) 今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・毎単元に自力解決で行う問題演習の前に、クイズ形式での理解を促す計算トレーニング。</li> <li>・「連立方程式」の単元において、ICT機器を使用した教え合い活動。</li> </ul>			
<p><b>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</b></p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>&lt;方策&gt;</p> <p>①過去の既習内容の苦手意識を取り除き、間違えたことを隠さず確認していくことで、主体的に学習に取り組む態度を育成する。</p> <p>②自分の考えをまとめ、クラスメイトに共有することで深く理解する。</p> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>&lt;検証方法&gt;</p> <p>①小テスト 実施前と後に行い、定着度を確認する。</p> <p>②ICT機器を用いた発表 発表の際に注意するポイントの説明も行うように設定する。</p> </td> </tr> </table>		<p>&lt;方策&gt;</p> <p>①過去の既習内容の苦手意識を取り除き、間違えたことを隠さず確認していくことで、主体的に学習に取り組む態度を育成する。</p> <p>②自分の考えをまとめ、クラスメイトに共有することで深く理解する。</p>	<p>&lt;検証方法&gt;</p> <p>①小テスト 実施前と後に行い、定着度を確認する。</p> <p>②ICT機器を用いた発表 発表の際に注意するポイントの説明も行うように設定する。</p>
<p>&lt;方策&gt;</p> <p>①過去の既習内容の苦手意識を取り除き、間違えたことを隠さず確認していくことで、主体的に学習に取り組む態度を育成する。</p> <p>②自分の考えをまとめ、クラスメイトに共有することで深く理解する。</p>	<p>&lt;検証方法&gt;</p> <p>①小テスト 実施前と後に行い、定着度を確認する。</p> <p>②ICT機器を用いた発表 発表の際に注意するポイントの説明も行うように設定する。</p>		
<p><b>4. 検証結果(成果と課題)</b></p> <p>&lt;成果&gt;スライドなどを使用し間違いやすいところや考えを説明できた。</p> <p>&lt;課題&gt;問題の意図の読み間違いがたまにあることが課題である。</p>	<p><b>5. 令和7年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</b></p> <p>受検(受験)などの文章題で読み取る量が増えるため、読み取りの問題を増やしていく。</p>		
<p><b>6. 令和7年度(次学年)末に期待する生徒の姿</b></p> <p>問題の意図を正しく理解し、問題解決に使用できる生徒。</p>			

〈授業改善推進プラン 令和6年度第2学年 理科〉

<p><b>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</b>          令和6年度村学力調査結果より、次のことが挙げられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「水溶液の性質」でのパーセント濃度の計算は正答率20%を下回った。</li> <li>・「火山」「地層」分野はどの項目も平均正解率を10%ほど下回った。基礎知識の定着が課題である。</li> <li>・図、表、グラフ等の資料を読み取る問いに関しては、この単元のみならず全般的に課題が見られる。</li> </ul>			
<p><b>2. 課題改善に向けた取組状況</b></p> <p>(1) 令和4年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「大地のつくりと変化」の校内平均正答率が14.3%であり、目標値40.0%および全国平均23.5%よりも低い。また、「大地のつくりと変化」の校内平均正答率が57.1%であり、目標値70.0%および全国平均77.4%よりも低い。</li> <li>・会話文やまとめられた図、表、グラフ等の資料を読み取る問いに関しては、この単元のみならず全般的に課題が見られる。</li> </ul> <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地球分野は中学校1年生で学習しているので、個々の能力に応じた復習問題を補充する。中学校2年生で学習する地球分野においても、タブレット端末を活用しモデル実験や図、映像資料を使い、主体的に考える学習活動を充実させる。</li> <li>・小テストの活用や授業内容をこまめに振り返ることで「知識・技能」の定着を図る。</li> </ul>			
<p><b>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</b></p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>&lt;方策&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①個々の能力に応じた復習問題を補充するためにタブレット端末を活用した学習活動を充実させる。</li> <li>②小テストの活用や授業内容をこまめに振り返ることで「知識・技能」を定着させる。</li> </ul> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>&lt;検証方法&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①ICTを用いた発表の評価と年間2回の授業評価アンケートの実施内容を分析する。</li> <li>②年間15回程度の小テストと年間4回の定期考査を実施し、内容を分析する。</li> </ul> </td> </tr> </table>		<p>&lt;方策&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①個々の能力に応じた復習問題を補充するためにタブレット端末を活用した学習活動を充実させる。</li> <li>②小テストの活用や授業内容をこまめに振り返ることで「知識・技能」を定着させる。</li> </ul>	<p>&lt;検証方法&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①ICTを用いた発表の評価と年間2回の授業評価アンケートの実施内容を分析する。</li> <li>②年間15回程度の小テストと年間4回の定期考査を実施し、内容を分析する。</li> </ul>
<p>&lt;方策&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①個々の能力に応じた復習問題を補充するためにタブレット端末を活用した学習活動を充実させる。</li> <li>②小テストの活用や授業内容をこまめに振り返ることで「知識・技能」を定着させる。</li> </ul>	<p>&lt;検証方法&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①ICTを用いた発表の評価と年間2回の授業評価アンケートの実施内容を分析する。</li> <li>②年間15回程度の小テストと年間4回の定期考査を実施し、内容を分析する。</li> </ul>		
<p><b>4. 検証結果(成果と課題)</b></p> <p>&lt;成果&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実験での意見を共有する時間をより多く設けたことで、自分の考えをアウトプットできる生徒が増えた。</li> <li>・小テストや定期考査の結果から、文章読解力を要する問題の正答率を高めることができた。</li> </ul> <p>&lt;課題&gt;</p> <p>実験をモデルにした文章題を読み取る力はあるが、基礎知識やの百分率の計算でミスをする生徒が見られた。</p>	<p><b>5. 令和7年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</b></p> <p>小テストの予想問題を活用し、定期的に家庭学習の機会を設定する。また、基礎知識の定着を図るためにタブレットを用いて授業の振り返りを行う。</p>		
<p><b>6. 令和7年度(次学年)末に期待する生徒の姿</b></p> <p>自然事物・事象に興味をもち、主体的に学習に取り組むことができる生徒。</p>			

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和6年度第2学年 音楽科〉

1. 『わかる』から『できる』を体感する授業を実現する上で解決すべき課題

前年度、理解度の項目についてCの「あまりあてはまらない」が25%だったが、生徒全員B以上となった。

学年のよさであるが、領域に関係なく他者と協力しながら物事を進める傾向にあり、協働的な活動においては積極的な意見交換や練習する姿が見られる。

しかし、理解度の項目について前年度からの改善は見られたものの、Aの「あてはまる」に該当する生徒がおらず、さらに理解力を高めていくことが課題である。

2. 課題改善に向けた取組状況

(1) 令和4年度授業改善推進プラン記載内容

・「わかった」「できた」と達成感を味わっても、その達成感に個人差がある。

(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業を実現するための工夫等

表現活動に意欲的な学年であるため、ためらうこともなく自分を表現することができる。現在、できていることを生かしながら、自分の考えなどを価値付けするために教師の言葉かけの工夫を行っている。特に、歌唱領域においては前年度からの課題である“声量”は改善されつつあるが、全員満足できるところまでに至っていない。そのため、声量を安定させるための技能の習得に焦点を当て、音楽を形づくっている要素と関連した身体の使い方を意識し、表現活動を充実させる。また、少人数指導の強みを生かし、一人一人にあった個別指導を取り入れ、個人差がある達成感を改善していく。

3. 課題の改善に向けた方策と検証方法

＜方策＞

- ①ドリルを実施する。
- ②アンケートを実施する。
- ③期末考査の分析を行う。

＜検証方法＞

- ①フォームを使ったドリルを実施し、授業に対する理解の定着を確認する。
- ②フォームを使ったアンケートの分析し、授業改善に生かす。
- ③期末考査の分析を実施し、ドリル作成や授業改善に生かす。

4. 検証結果(成果と課題)

＜成果＞

歌唱分野に関しては姿勢や口の開け方など基礎的なことを確認し、楽曲についてどのように歌うか根拠をもち歌唱表現に生かすことができた。

＜課題＞

「知識・技能」と絡ませながら、自分の考えについて根拠をもって説明することができるが、分野によってはねらいがずれてしまうことがある。

5. 令和7年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項

教材の中でねらいは何なのかを明確にし、音楽を表現するための技能や知識を絡ませながら表現活動ができるよう指導する。  
歌唱以外の分野も興味をもっている。器楽や創作の分野を充実させる必要がある。

6. 令和7年度(次学年)末に期待する生徒の姿

音楽に親しみ、どの分野も楽しみながら表現活動ができる生徒。

〈授業改善推進プラン 令和6年度第2学年 美術科〉

<p><b>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</b></p> <p>昨年度の経験が生きて課題解決の力が大きく伸びたと感じられる場面もあるが、自ら主体的に課題にアプローチして取り組む力や、自分の置かれている状況を判断しながら見通しをもって組み立てる力をさらに伸ばしていけるとよい。</p>	
<p><b>2. 課題改善に向けた取組状況</b></p> <p>(1) 令和4年度授業改善推進プラン記載内容</p> <p>【課題】授業への興味・関心は高いが、学習内容の確実な定着については、改善が図られるとよいと考えられる。</p> <p>【改善策】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・表現活動においては、活動に応じて材料や用具を活用し、全学年までの学習内容や経験、技能等を総合的に生かしたり、方法などを組み合わせたりするなどして、活動を工夫する指導を行う。</li> <li>・表現活動における造形遊びの過程や振り返りにおいて、児童自らがタブレット端末やデジタルカメラを活用することで、図画工作科の学習におけるメタ認知能力を高める。</li> </ul> <p>【評価】授業内のすべての活動に真摯に取り組む姿勢が見られ、与えられた課題も細分化されたステップごとに解決していこうとする意識が高いため、成果が作品に顕著に表れている。より汎用的な課題解決力を養っていくためのレベルアップを意図した授業改善を継続していく。</p> <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・作品制作の中間発表とグループでの鑑賞活動を行い、協働的な学びの場を設けて互いの作品のブラッシュアップの機会を増やしている。</li> <li>・題材ごとの導入を丁寧に行い、スモールステップの設定と毎時の目標を細分化している。また、振り返りワークシートを用いて目標の達成に対する自己評価を行い、次回の自分に向けての覚え書きを残すなど、主体的に取り組みを継続できるようフィードバックも充実させながらルーティンを作っている。</li> </ul>	
<p><b>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</b></p> <p>＜方策＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①年間2回授業評価アンケートを実施する。</li> <li>②授業ごとの振り返りや題材ごとのまとめの活動を充実させる。</li> </ul>	<p>＜検証方法＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①年間2回の授業評価アンケートの実施内容分析。</li> <li>②振り返りワークシートのフィードバックを行い、自己評価を継続して比較する。</li> </ul>
<p><b>4. 検証結果(成果と課題)</b></p> <p>＜成果＞</p> <p>既習事項を活用して構想を練り、身に付けた知識や技能を発揮しながら作品制作に取り組むことができた。</p> <p>＜課題＞</p> <p>すべての生徒が昨年度の経験を生かし、振り返りワークシートやクラスルームを使いながら進捗を自己管理できるようになってきているが、見通しがあまく他教科とのバランスがとれない生徒がいることが課題。</p>	<p><b>5. 令和7年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・題材導入時点からゴールまでの見通しをもてるよう、工程を可視化して常に確認できる環境をクラスルームで作り進捗状況の共有を行うことを継続する。</li> <li>・振り返りワークシートや課題等共有ファイルの機能を活用し、進捗管理のサポートやリマインド、フィードバックなどを丁寧に行う。</li> </ul>
<p><b>6. 令和7年度(次学年)末に期待する生徒の姿</b></p> <p>計画性と自己管理能力を高め、学んだことや身に付けた力を最大限発揮できるような生徒。</p>	

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和6年度第2学年 保健体育科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業を実現する上で解決すべき課題</p> <p>授業評価アンケートの結果より、「教科の関心を高められているか」、「内容を理解しているか」という質問に対して、全生徒が肯定的にとらえている。一方、「授業で身に付けたことがどのようなときに生かされるか」という質問については、各自が取り組んでいる競技で生かすことができるという内容にとどまっており、汎用的に生かせるようにすることが課題である。</p>	
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和4年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・体力やコーディネーション能力の向上を目的とした補強運動を設定し、年間を通して授業の導入部分で実践している。</li><li>・学習カードやICT機器を活用し、運動のポイントが視覚的にわかりやすいように工夫している。</li><li>・体力の違いや技能に応じて、ルールの緩和を行い、全員がゲームに参加できるようにしている。</li></ul> <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・技能の習得に繋がる補強運動を設定し、単元に応じた技能の習得を目指す。</li><li>・学ぶ内容の全体像や授業の流れを示す際に、言葉だけではなく視覚的な手がかりやICT機器を活用する。</li><li>・運動の楽しさを「する・観る・支える」の視点から捉えられるように授業に関連付ける。</li></ul>	
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <p>&lt;方策&gt;</p> <p>①年間2回の授業評価アンケートの実施をする。</p> <p>②単元の全体像や学ぶ内容の重要事項、前時との関係性がわかるように板書やワークシート、スライドを活用する。</p>	<p>&lt;検証方法&gt;</p> <p>①年間2回の授業評価アンケートの実施内容分析</p> <p>②スプレッドシートで授業内容の理解度を確認・分析</p>
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p>&lt;成果&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・後期授業評価アンケートの結果から、「興味・関心を高めている」という生徒が9割を占め、主体的な学びを促すことができた。</li><li>・見通しをもって授業に取り組んだことで、実技テストや学習発表に向けて計画的に練習に取り組むことができた。</li></ul> <p>&lt;課題&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・分析した自分の課題と解決に向けた練習方法を正しく選択できないことがある。</li></ul>	<p>5. 令和7年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・自己の技能習得の達成度にかかわらずアドバイスし合えるように、どこにポイントをおいて観察すれば良いかを理解させる。</li><li>・複式学級における男女共習授業であることを配慮し、より多くの生徒の意見を共有し、学びを深めることができる環境を整える。</li></ul>
<p>6. 令和7年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿</p> <p>心と体を一体として捉え、豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を伸ばせる生徒。</p>	

【別紙 2】

〈授業改善推進プラン 令和6年度第2学年 技術科〉

1. 「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題

- ・学習における課題設定と、振り返りを習慣化させることが求められる。
- ・実践的・体験的な学習活動では、全ての生徒が意欲的に取り組んでいるが、知識の観点で差が出てくる生徒がいる。

2. 課題改善に向けた取組状況

(1) 令和4年度授業改善推進プラン記載内容

- ・プリント教材を用意し、毎時間の授業の振り返りを家庭でできるようにする。
- ・作業に遅れがある生徒には、道具の使い方を実演・助言を行い、進度をそろえる。

(2) 今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等

- ・学習振り返りシートを用意し、毎時間の授業の振り返りに教師がコメントを返し、授業の理解度を深める。
- ・グループワークを取り入れ、学び合いを活発化させることで知識・技能の習熟を図る。

3. 課題の改善に向けた方策と検証方法

<方策>

- ①学習の理解度が本人にフィードバックされるように振り返りシートに記入させ、適切な支援を行う。
- ②ノートやワークシートで課題に気づき、解決できる能力を身に付けさせる。

<検証方法>

- ①課題， 考査， 授業評価アンケート
- ②課題， 考査， 授業評価アンケート

4. 検証結果(成果と課題)

<成果>

- ・振り返りシートを活用し、フィードバックによる支援を行ったことにより、特に調べ学習や作業において、自主的に活動ができるようになった。

<課題>

- ・技術分野におけるキーワード(技術的な根拠)を踏まえた上での説明する力に課題がある。

5. 令和7年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項

振り返りシートのフィードバックに、教師が意図的に技術分野のキーワードを活用し、本時で学んだことと技術の根拠が結び付けられるような言葉掛けを行い、より生徒の表現力を高められるよう、支援を継続する。

6. 令和7年度(次学年)末に期待する生徒の姿

使用条件や使用目的を踏まえ、自分の考えや思いを、技術的な根拠を基に相手に伝えることができる生徒。

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和6年度第2学年 家庭科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・基礎的な知識の定着。</li><li>・既習事項を活用しながら自身の生活と結び付けて考えを深め、振り返ることができる生徒が少ない。</li></ul>	
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和4年度授業改善推進プラン記載内容</p> <p>「基礎的な知識の定着」、「実習や実験などの実践的で体験的な題材以外への興味関心が低いこと」が課題として挙げられている。その授業改善策として実習や実践的な活動の機会を増やし、生徒の実践意欲を高め、基礎的な知識の定着を促すことができたようである。</p> <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ICT機器を使用した振り返りシートを活用し、基礎的な知識と実生活での結び付きに注目させながら、振り返ることができるように教師がコメントを返す。</li><li>・実習や実験などの実践的で体験的な活動の機会やICT機器を活用しながら視覚教材を増やす。</li></ul>	
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <p>&lt;方策&gt;</p> <p>①副教材や視覚教材、ICT機器を活用し、実生活と結び付けられるように身近な話題を取り上げて学習意欲を高めながら、生徒それぞれに応じた適切な支援を行う。</p> <p>②実践的で体験的な活動を増やし、自身の体験から基礎的な知識の定着を図る。</p>	<p>&lt;検証方法&gt;</p> <p>①授業内での課題や実習記録、年間3回の定期考査、年間2回の授業評価アンケート</p> <p>②授業内での課題や実習記録、年間3回の定期考査、年間2回の授業評価アンケート</p>
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p>&lt;成果&gt;</p> <p>①自身の生活と結び付けて考えを深めることが少しずつできるようになった。(振り返りシート等の記述より)</p> <p>②振り返りの内容や授業中の発言などに変化が見られ、既習事項を活用する場面が増えた。(振り返りシートの記述、授業観察より)</p> <p>&lt;課題&gt;</p> <p>自身の生活と結び付けて考え、よりよく改善しようとする生徒が少ない。</p>	<p>5. 令和7年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <p>実践的で体験的な授業時間を確保し、自身の生活と結び付けて考えられるような授業を展開する。また、既習事項を活用して振り返るように声掛けを徹底する。</p>
<p>6. 令和7年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿</p> <p>既習事項を活用し、自身の生活と結び付けて考え、よりよく改善しようとする生徒。</p>	

〈授業改善推進プラン 令和6年度第2学年 英語科〉

<p><b>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</b>          令和6年度学力調査の結果において、以下の課題が挙げられる</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「聞くこと」の領域のうち、「内容理解」の問いではクラス平均正答率が66.7%であり、全国平均に比べ18.2%低く、問題形式から、絵や写真を見ながら聞いた情報を整理する点に課題がみられる。</li> <li>・語形・語法の知識・理解を図る問いにおいて、クラス平均正答率は68.8%で、全国平均より、7.0%上回っているものの、個人で見ると0.0%、50.0%の生徒がおり、1年生の内容習熟度に課題がみられる。</li> </ul>	
<p><b>2. 課題改善に向けた取組状況</b></p> <p>(1) 令和4年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和4年度の授業改善推進プランにおいて、「聞くこと」に関する記載なし。</li> <li>・令和4年度の授業改善推進プランにおいて、「語形・語法」の記載</li> </ul> <p>【課題】既習表現を思い出せないことが多く、知識の定着に課題がある。</p> <p>【改善策】令和2年度と同様に、既習表現や単語を黒板に書いたり貼ったりすることで、児童が活用しやすいようにする。</p> <p>【評価】毎時間既習表現の確認を行う時間を設けることで、自信をもって表現できるようになった。</p> <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・デジタル教科書を活用し、音声と写真から英語を理解し推測する活動を行う。</li> <li>・文法の学習において、振り返る機会を意図的に作り、「知識・技能」の定着を図る。</li> </ul>	
<p><b>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</b></p> <p>＜方策＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 視聴前に新出単語と文法事項を学び、視聴後、ドラマ内容を基に、ALTと英語で内容確認をしながら動画内容を推測する。</li> <li>② 単元テストをこまめに行い、定期的に習熟度を測る機会を作る。</li> </ul>	<p>＜検証方法＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①各ユニットでのリスニングテスト。</li> <li>②年間8回の単元テスト、年間4回の定期考査の結果分析。</li> </ul>
<p><b>4. 検証結果(成果と課題)</b></p> <p>＜成果＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・音声を聞き、概要を捉える力が高められた</li> <li>・単元テストに向けて、主体的に学習に取り組む習慣が形成され始めた。</li> </ul> <p>＜課題＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・音声を聞き取り、概要は捉えられるが、音声内の情報を把握する力に課題がある。</li> <li>・文法や語彙の定着について個人差がある。</li> </ul>	<p><b>5. 令和7年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報を把握するために、聞き取った英語を文字化するディクテーション活動の場を設ける</li> <li>・書いたものを見せ合ったり、対話したりする活動を入れ、生徒間で教え合う場を設ける。</li> </ul>
<p><b>6. 令和7年度(次学年)末に期待する生徒の姿</b></p> <p>基本的な表現方法や語彙の知識を身に付け、英語でのコミュニケーションにおいて活用できる生徒。</p>	